あ　と　が　き

この度「いしかわレッドデータブック〈動物編〉 2009」が制作されました。前回の「いしかわレッドデータブック2000」は冊子として発行されましたが、今回はCD-ROMの形で公表されることになりました。パソコンに不慣れな方にはいくらか不便ではありますが、仕事のうえで利用される場合には大きな支障はないでしょう。

平成16年から始まった「いしかわレッドデータブックフォローアップ調査委員会動物部会」のメンバーを中心とする石川県内外の多くの動物研究者、自然愛好者の方々によって、最近10年間に集められた知見をもとにして、今回の改訂が行われました。この知見の大きな部分はそれを本来の業務とする専門家ではなく、他に職業を持っている自然愛好者の方々の、自費と余暇を割いての努力によって集められたものです。このアマチュア自然愛好者の層の厚さが、県内の野生生物をはじめ自然環境の実態を明らかにし、より良い自然環境保全の方向を考えるうえで大きな力になっています。この野生の動植物を含め自然を観察し、記録して整理しまとめる作業には、部分的には多様な新しい手段や機器を利用することもできますが、最終的には熟練した個人の力に頼らなくてはならないでしょう。

しかしこのような個人の力だけでは、広大で微妙な自然の姿をとらえるうえでは限界があります。その上に自然も人間社会もこの間に急速に変化しています。県民すべての生活を安定させ豊かな情操をはぐくむ、地域の自然の実態とその変動を把握するためには、地方自治体、国、国際機関がそれぞれの立場から、この自然を解明する個人の努力を支えなくてはなりません。今回の県のレッドデータブックも、こうした個人の努力と組織の支持によって出来上がったものです。

このレッドデータブックは、守らなくてはならない野生の自然を、動物の「種」のレベルで示したものです。しかしそれは個々の「種」だけではなく、その「種」が正常な生活を維持しているバランスのとれた「生息環境」を示すものであり、「種」を守ることはその生活する背景となっている良い自然環境を守ることです。「絶滅危惧種」を保存するというと、しばしばその特定の「種」の「個体」だけを取り出して、管理された人工の装置内で生存させることで「種」の保存の目的を達成したと考える人があります。現在のように急激に変わって行く地域環境のなかでは、やむを得ずそのような技術を使わなくてはならないこともあるかも知れません。しかし原則として「種」の保全は、その「種」が正常な生活をしている環境の中で行われるものです。

このレッドデータブックがその手がかりとして活用されることを期待しております。

石川県野生動物保護対策調査会　大串　龍一